

つ どう う

平成五年 秋田県梅花流奉詠大会 (県南)



7月17日 大内町農業環境改善センター 26講 620名



平成6年2月28日
第8号

題字 大館市宗福寺住職 加藤信三老師御染筆
 発行所 北秋田郡森吉町本城 浄福寺内
 秋田県梅花流師範会事務局
 発行者 亀谷健樹 (広報部)
 編集者 保坂春聴
 印刷所 秋田県北秋田郡森吉町米内沢 武石印刷 ☎0186-72-3319

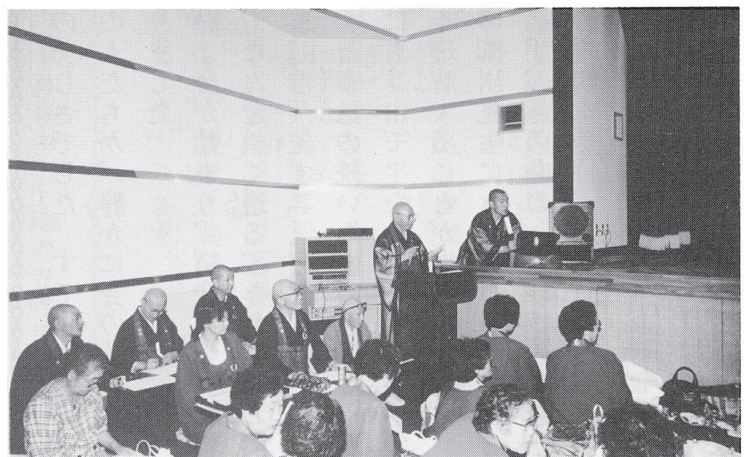


立行も上手に出来ました!

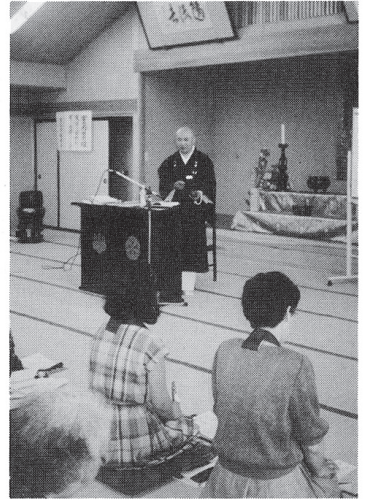


楽しい昼食の時間です

「せまくてすみません」 役員席



新潟県 大龍院住職 駒形正美 師範
 山形県 松根庵住職 藤原知雄 師範



藤原知雄師
 7月2日 秋田市・弾センター

初めて
 講習会を受講して

雄和町 普門院梅花講
 堀井敦子

普門院の梅花講に入って二年くらいになるかと思えます。初めて教典を手にしたときその歌詞の美しさに心を打たれ、涙をし、曲のすばらしさに酔いしれました。たとえ下手でも、唱えておられますと心が和ごみ、仏様に心が通うような気がして来ます。雨の日でも雪の日でも、お寺に通うことが苦にならず、何かに支えられていると、うれしく思っております。さて、六月二十四日、山形

県より藤原知雄先生が遠路のところ講師として来られ、御指導を頂きました。

初めての講習会なので、最初はみんな緊張と「おそれ」でコチコチの私達でした。先生の男性的でのびやかな、それでいてソフトなお声で話しかけられての講習。何度も何度も、覚えにくい箇所をかみくだいてお教えを受けましたが、さぞ難儀をされたことと思います。

曲がとんでもない方へ変っていったり、休憩をすると、前に習った所はすっかり忘れてしまったり。先生もあきれ苦笑いさ

特派講習会に参加して

能代市 玉鳳院梅花講
 鈴木ツヨ

今朝は、珍らしく梅雨が晴れ上り、肌寒さの感じられる六月二十四日、ここ玉鳳院で特派師範駒形先生をお迎えして、特派講習会が開かれるということで、朝の後片づけを済ませて急ぎました。

日頃、私達の梅花講も、同じ特派師範でいらっしやる柳川先生の許で、毎月二回の練習をしております。今回は、駒形先生のご指導ということで、楽しみにして講友と共に参加させていただきました。

お寺の境内は、さわやかな緑が、目にし

れておりました。

しかし、和気あいあいの内に、とても楽しい一日はあつと言う間でした。膝で拍を取る事もおろそかに、夢中で声を出しているのがやつとでした。そばに居た、普門院の先生は、そわそわと落着かなく、きつと冷汗を流していたのでは……。

藤原先生には本当に御苦労様でした。これからも精進を重ね、鈴を鳴らし、鉦を打ち、声を揃えて一人前に正しい所作で、仏様の前に奉詠する日を信じて、同行の友とはげまし合って行きたいと思っています。

みる程の美しさでした。すでに本堂には、梅花服の人たちが、静かに会の始まりを待っております。

いよいよ会が始まり、紹介を受けた駒形先生の、なんとよく透る、きれいなお声に感心しました。先ず「三宝御和讃」そして「紫雲」と奉詠の続いた後の批評は、きびしい中にもユーモアたっぷりです、笑いの中にもよく理解することが出来ました。

私達の柳川先生にも、新しい曲に入る前には、必ず、その曲の一語一語の意味と、その心の説明を受け、よく理解した上で、曲の指導を受けております。

更にこの度は、駒形先生より、声の出し方について、ご自身の体で呼吸の方法等を



駒形正美師
6月25日 合川町太平寺

平成五年 特派講習会

示され、とてもわかりやすく、面白く教えていただきました。午後からは、新しい曲の「盃蘭盆会御和讃」の指導がありました。皆さんとでも早く上手に覚えられたようでした。こうして、朝から始められた講習会は、大変楽しい中で心身共に栄養を与えられた感じで一日が終わりました。最後に、心をこめて「報謝御和讃」をお唱えしました。皆さん「ほんとうに楽しかったですネ！」「よかったですネ！」と互いに声をかけての散会となりました。

講習会ではお世話になりました

上小阿仁村 小嶋君子
福昌寺梅花講

一昨年、新田寺様で開かれた、特派講習会に初めて参加させていただきました。講師先生始め、大勢の講師の皆様方の熱気に圧倒されました。すばらしい鈴鉦のひびきと詠唱を聞き、ただただ感動して帰って来たことを覚えております。

昨年の特派講習会は、梅雨の中休みでしようか、さわやかな天候に恵まれて、合川町の太平寺様に伺いました。

受講中に初めて聞く曲では、回りの方々の足を引っ張ってはと心配しましたが、両どりの他寺の講師の方が、親切にお世話して下さい、本当に感謝致しております。

また、あらためて「四摂法」の御教えを拝聴し、深く感じ入りました。これからは少しでも心して過ごさねばと、思いをあらたにしております。

講師先生の、冗談を交えた講習に、笑ったり、胸をチクリとさせられたり、終始和やかな雰囲気、心温まる一日でした。

私は、縁あって少女時代の思い出の地、上小阿仁村にまいります。長い間、遠ざかっておりました菩提寺「福昌寺」のお彼岸や

お盆等の法要に参加し、その時に御詠歌を聞き、私も同じように……。そんな時梅花講にお誘いをいただき、早速参加させていただきました。

毎月二回の練習には、皆様より親切なご指導をいただきますが、音程がはずれたり、声か思うようにならなかったり、鈴鉦をつけるにおよんでは、手の方に神経を集中すると口がお留守になり、手と口のバランスが取れずに四苦八苦しております。

このように未熟ではございますが、講習会に参加して、皆様と共に研修を重ねて参りたいと思っております。

平成五年特派実施会場

月日	教区	住所	会場名
6・21	13	男鹿市	寺院寺
22	2	鹿目町	昌休庵
23	9	五城町	鳳平
24	9	琴丘代	運泉
25	10	能合町	徳
26	18	鷹巣市	温
27	18	大館市	恩
28	11	鹿角市	徳
以上 駒形正美師巡回			
6・24	12	雄和町	善大
25	16	大森和町	徳東
26	7	協和町	正蔵
27	8	田沢湖市	龍
28	1	秋田市	長
29	3	本荘市	七
30	14	仁賀保市	塔
7・1	4	本荘市	セ
2		本秋市	ン
以上 藤原知雄師巡回			

シリーズ

あらほの梅花講

ほんきゆうじ 本宮寺

住所 大館市本宮字熊ノ下
 (第十八教区)
 設立 昭和三十一年八月十五日
 講長 佐藤 広 俊
 講員数 三十八名

曹洞宗に梅花流が誕生してから遅れること五年、昭和三十一年八月十五日『梅花流正法教会本宮寺支部』として認可を戴いております（先住で現全応寺住職・佐藤仁鳳老師の代）。

最初は、檀信徒各一戸につき一名の参加を呼び掛けて講員を募り、約六十名で始めたようです。当時の写真には、庫裡の広間がいつぱいにうめつくされ、ガリバン刷りの教典を手に、熱心に受講している様子が写っております。

年配の講員さんは、「教えてもらった曲を忘れないようにと、台所や田畑でも梅花の一節を唱えて覚えたもんだ。それを聞いていた子供達も、知らず知らずのうちに『三宝御和讃』『正法御和讃』『花供養御和



讃』などをよく唱えていたよ」と話しておりました。そんな訳で、私が昭和五十一年に講長になった時には、講員さんの方が沢山曲目を知っていて、私が逆に聞かせてもらいました。

勉強会は不定期で、お寺で年間十回、各地域（三ヶ所）において年間六回を目標として練習をしております。

お寺の行事では、観音講、彼岸講、孟蘭盆会、涅槃会等の法要に参加して奉詠して

おります。また、県の奉詠大会に登壇奉詠して日頃の研鑽披露？。さらに、奉仕作業として境内清掃、各地区での不幸ごとの際には、奉詠供養もしております。

常日頃、講員さんには、お誓いの精神である『正しい信仰に生き、仲良い生活をして、明るい世の中をつくる』ため、一人一人が研修を通して、お互いが体得し実行してほしいと話しています。

講員も高年齢化してまいりました。これから若い方々の参加をいかに進めるかが講長としての最大の悩みですが、梅花の花の蕾を一輪一輪開花できるように努力して行きたいと思えます。

紹介者 講長 佐藤広俊

投稿



詠讚歌と私

本荘市赤田
長谷寺梅花講

伊藤多恵子

私の菩提寺は、赤田の大佛さんとして知られております、本荘市の正法山長谷寺です。

時にはきびしく、時にはやさしく御指導下さるお寺の奥様と、先輩の皆様のおたかひ心に支えられ、梅花の勉強を始めてから早九年の歳月がたちました。

月二回の練習日には、講員二十二名の

蔵立寺

住所 由利郡東由利町蔵字蔵
(第三教区)
設立 昭和六十二年九月
講長 阿部寅静
講員数 十七名

私達に、ふたたび梅花教導の道をお開き下さいました方丈様に感謝申し上げます、過去をふり返って見たいと思います。

昭和六十二年九月檀家一同菩提寺に集まり、西目町円通寺様を講師としてお迎えいただき、月に一回の講習の機会を得、また奥様には私達講師のために、復習の場をもうけられ、私達自身も詠讚歌の句意を少しでも理解できたらと努力し現在に至っております。

当時は、受講者の数も多くございましたが、ここ数年婦人の就労率も増加し、家庭をあずかる主婦にとつては、時間の配分に苦慮する方、また梅花教習には費用がかかるとの声も聞かれますが、高令化社会の中には「仏心」なくして安楽の道がないものと信じ、一人でも多くの方々に講師としてお迎えする日の来ることを希望しております。そして菩提寺の年行事であります新年梅花会、三月涅槃会、三月春彼岸会、三月道元講、四月花まつり、七月地藏祭、九月秋彼岸会、忘年梅花会と行事に合せての参席奉詠もいたしております。

ある講習会の折に梅花の道しるべとして三十三観音巡礼が話題になり、佐藤さんのはからいで計画され、今年で三十三ヶ寺を万願成就する予定です。心のよりどころとして御本尊様をおろがみ、自分を清め、一日でも悔いのない明るい人生をおくるため、互いに励まし仲良く梅花を咲かせつづけたいと思っております。

先日、本荘市蔵堅寺様を会場に特派講習会がありました。私達講師にとつては、大事な勉強の場であり大変参考になりました。講習の最後に、皆様で同行同修の報謝御和讃の唱和に、唯々感謝と感動に涙し、有意義な一日であった事を思い出しております。秋田県の奉詠大会では、登壇五回目の日の浅い私達ですが、梅花講にとつての正念場でもありますので、各講の皆様と奉詠できますことを幸せに思っております。

いつまでも私達蔵立寺梅花講を教導して下さいますようお願い申し上げます。御繁栄を御祈りいたします。

紹介者
阿部澄子
講員



仲間の皆さんの御詠歌や御和讃の鈴鉦のひびきが、お寺の夜のしじまの中に流れます。

毎年参加させていただいております奉詠大会での登壇奉詠。心の臓が破裂しそうな検定会の緊張等、感動と喜びと楽しさの九年間でもありました。

練習のあい間の「ホット一息」。お寺でお出し下さるお茶でかわいた喉をうるおし、おいしいお菓子を頂きながら、方丈様や奥様のありがたいお話や、仲間の皆さんの日常のいろいろなニュース等、日頃家にこもりがちの私にとつて、この上ない楽しいひと時でもあります。

今日生きている幸せを感謝しながら、平成の世の光をあびて、私達の菩提寺がますます光輝くことをねがい、そして、梅花講が美しく花開く日を念じつつ、誠心をめて詠讚歌の道に精進したいと思えます。



私の梅の花流

なんぎ した はなし

はじめは水団から 高祖さまにつかえて

昨年六月二十三日、私も修行時代の仲間（同窓会）「昭和二十四年安居会」が永平寺で開かれた。

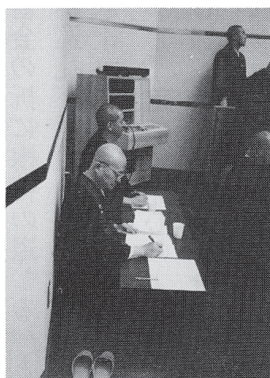
今回のテーマは「同安居の物語者供養と水団を味わうこと。及び能登の総持寺祖院と永光寺拜登」である。戦後の食糧難時代の永平寺は、朝の麦の混じったお粥さまは、天井の写るもので再進（おかわり）があり、昼は麦御飯（大根干し葉が入ったもの）一膳きり、夕食は水団で再進があった。一年半後夕食も麦御飯一膳きりになって、水団二杯いたただく方が腹持ちが良かったように思う。

がまじったものであって、今は昔の味を出すことができないが、思い出深い味であり、楽しい旅であった。

私は昭和六十三年思わざる好運に恵まれ祖山永平寺の侍真のお役を拜命して、四十年振りに御開山様に奉侍させていただいた。不徳の身を以て二代尊が奉勤承侍なされたままを今に伝える承陽殿のご修行である。

朝二時半起床身仕舞を正して御開山様の御上壇へ登り献灯献香し御覚眠をしていただき、御洗面の式了って献水、干梅、洗櫃（櫃の実）・密湯・抹茶をお供へし干梅飜（干梅の飜）を大慈悲陀羅尼を十方三世の速さでゆくり真読します。行香師（坐禅の導師）の下壇での御開山様への御挨拶が終るを待って、祖堂飜経、次に献膳して献粥飜経、朝の内献了って供物をお下げし、法堂の朝課飜経に出ます。日中の内献は献茶献膳して飜経をし、晩

課の内献は香湯（香煎を作って白山水のお湯



中央筆者
奉詠大会に於

を注ぐ）を献じて飜経をする。夜は八時半に御開山様の御開枕のお式を申し上げお休みいただく。この間一日六十二拝しながらの奉侍である。御開山様は今もお生きて我々と御修行あそばされておると、信じての行である。

また三と八の付く日には、朝のお粥さんをいただいですぐ御開山様の御濯沐である。お体をお洗い申し上げ、お持ち物や手の届く天井までも、それぞれの浄巾、浄桶でお洗い申し上げます。承陽殿が終れば、外の寮舎で三八大掃除が始まります。修行僧は四九日に浄髪・開浴となります。冬は御開山様にお帽子をお召しいただき、夏は団扇をお使いいただけます。日頃無道心の私は、体調を崩しながらもどうかお勤めをさせていたただいているのが実際であった。

或る日、監院老師の厳命があり、梅花の担当をすることとなった。毎月一日・十五日の晩、地藏院又は門前公民館での例会と年数回修行僧対象の本講の指導である。春の高祖大師報恩授戒会、夏の地藏院孟蘭盆会の奉詠。秋の御開山様の御征忌の報恩会式、冬の成道会の奉詠等が本山の行持である。また県奉詠大会や全国大会の引率もあり、日常と違う梅花講の担当は私の祖山在任を潤い多いものにしてくれた。

修証義百周年記念大会が、千葉の幕張メ

講長アンケート

【検定について日頃感じていること】

- ★検定にかかる時間を(同教階で)同じに出来ないか、可否の発表方法、受検票の返却について統一して頂きたい。
- ★合否を、検定終了後直接受検者が確認出来るようにしてほしい。
- ★検定の為に勉強する感がある、身を入れて勉強するので結構だと思いが、検定に促われすぎて、検定第一とならぬよう検定員は検定のみ梅花でない事を一言注意して梅花に対する意欲を持たせるよう指導して欲しいと思います。
- ★上級者について義財金の値上げ、年々上昇、出費も多く、布教の趣旨から検討してほしい。
- ★同じ講員は分けて入室した方が良く、平等に冷静に出来ない様な気がする。3級教範になればなおさら。もっと厳しくてもよいと思う。
- ★検定は梅花の普及発展の為になれば、その為にも受験者に対して、その場で間違いや、習得出来て無い所を指摘し、正して行く場にするならば、正しい梅花普及になると思います。
- ★検定会も、奉詠大会もあまり暑い時にするので、病人が出る事が有る、10月下旬以降が良い。
- ★余り検定にばかりこだわり過ぎて、皆で楽しく習ったり、唱えるのが出来ない気がする。
- ★5年もかけて唱えているのですから、信仰の熱意から合格させて下さるようお願いします。
- ★講員の個人差が大きい為、4回目位までは年2回位の検定を若手の講員が要望。足、腰の痛い高齢者は、受検の体形を苦慮して渋る傾向も有ります。
- ★検定委員の打ち合わせ(特に上級者に対して)を綿密にすべきと思う、委員長を中心として。
- ★検定当日(検定室にて)の叱咤を押さえぎみに、激励を大いにして頂ければと思います。
- ★待機している時間が長い。高齢者が多いので緊張感を和らげながら指導も少し入れて欲しい。

リポート (II)

ッセで行われ、新曲修証義御詠歌が発表されたと聞き、秋田市金足の東泉寺様に、練習用の録音をお願いした。丁度お檀家の方が本山参拝なさるので、新教典とテープを持って来られた。テープは本庁の物で、さっそくかけて見てびつくり。東泉寺柴田師範本人の吹込みであった。幸いにも誰よりも早く新曲の勉強ができたことである。

祖山在任中、時々上山される天野、石川、大島の各正伝師範に、昔指導をいただいた誼みの故を以って励ましを受けました。梅花のつながり、暖かさをしみじみ知ることができた。

在任三ヶ年平成三年御征忌後、こつかさうあん 乞暇送行

することができ、フラフラながら自坊に帰山した。平成四年は、専ら体力の快復にとめた。平成五年正月二十一〜二十二日禅センターで一泊の師範詠範の研修会が中央の講師を迎えて行われた。久し振りの受講で充実した気分で自坊に帰ったら、家内が「昨日二十一日にタカサキと言う方から電話があつた。住職が不在といったら、ではまた電話すると言われて切った」と言う。良く考えて見たらタカサキという方を一人知っている。本山でよく御一緒した方で福井県の第二教区長さんで吉峰寺の高崎東源老師であります。梅花の特派師範の本山派遣の時や県大会等で御懇意をいただき、大

変お世話にもなった方でもある。さっそく大野市の岫慶寺は兼務地で、そちらに奥様がおられるので電話をした。奥様がお出になられ「うちの方丈は正月十五日自動車事故で、武生の山の谷川に落ちて亡くなりました」と。一瞬耳を疑った程驚いた。若し二十一日の電話は高崎老師からであれば初七日に当る。他に高崎というお付合いの方は思い当たらない。その後タカサキという方から電話はまだない。今では、その電話はあの世からのものと信じている。

雄和町 相川寺住職

丹生純雄

こころをよむ (七)

高祖承陽大師第二番御詠歌

水鳥の住くも帰るも跡絶えて

されども道は忘れざりけり

私ごとですが、最近お寺を改築頂いた折、近郷の女流書家にお願ひして、道元禪師の『傘松道詠集』より梅花に因む和歌を襖に書いて頂いた。

先日、元国語の先生ご夫婦がおいでになり、格調高い鑑賞と相なった。その第一首がこの和歌であった。

「えっ！ 貴方って水鳥タイプ??」

流石は元国語の大先生、スラスラと読まれた後、サテ解釈へと望まれて、奥様にかくのたまわれた。

「これは、動物のスバラシサを見習えよとのお諭しらしい。渡り鳥を考えてみたらいい。レールもなければリーダーもないのに道を忘れずに必らず帰って来るだろう?」「アラッ、それじゃーお父さんと同じね、だってベロベロに酔っても、必らず帰って来るもの」おとととととと。

『応無所住、而生其心』

お釈迦様が迷い多き私達に、人間としての正しい生き方をお示し下さり、それが沢山のお経として伝えられておりますが、そのお経の一つ「金剛般若波羅密多経」の中で「生きて行く上での心の持ち方」を示して下さっているのが、前記『応無：：』であり、それ『水鳥の：：』の歌が生まれる元になった一節なのです。

右の句は『応に住すべき所無くして、その心を生ずべし』となります。この「住する」とは、一つの事に心を止める、又はこだわり続ける事を指しますが、ここでは「住する所無し」と否定しています。

坐禅の時、和尚様が「心に浮かんでくる物があつたら、浮かぶままになさい。それを追い求めぬよう!」と注意をして下さる、それと違ってよいでしょう。

あるがままに素直に受けとめ、自由自在に対処して行くことが大切だと示しておられるのです。

例えば、困ったり悩んだりしている方から相談を受けたとします。親しい人があれば一生懸命になって相談に乗る。解決に向かって協力もする。そして一件落着。ここでスパッと終わればいいが、口のあたりがかゆくなる。「みんな私のおかげなの!」



そこ迄は行かなくとも「一日一善、今日は有意義だった」等と一人悦に入っている事はございませんか?。もしそうだとしたら、大間違いだと教えています。つまり、相談に乗ったことも、努力したことも万で忘れる。然し常に精一杯努力をする。そして何事にもこだわらない、とらわれない、自由自在の姿こそが私共の正しい生き方と、教えてくれます。

仏教徒は、特に梅花を志さず皆様は、自然の中にその生活を歩んでいくのですから。もつとも、そう思った瞬間、道を踏みはずしているんですネ!

解釈

「水鳥が静かに水面を自由に泳ぎまわっている。そしてその通り、過ぎた跡は忽ちかき消えて見えなくなる。しかし、水鳥は四方に気を配り、自分の本来の在り方を失なうことなく、その向う処は心得ている。」
一つことに心を留め、思い巡らすことを捨てた状態であり、それでいて、水鳥の本来の在り方に向って安住、停滞することなく、たえず歩み続けるようにと、述べておるのであります。

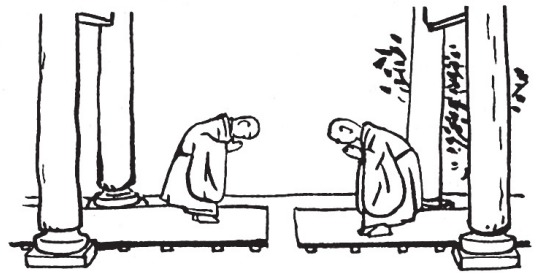
鹿角市 恩徳寺住職

岩 館 祖 芳

チヨット ぶじよほう

拍速あれこれ

しゆもく しょう
こころの撞木で、からだの鉦を



昭和三十年代、盛岡の報恩寺で修行していた時のことである。ある日、本堂では梅花のけいこ日であり、先生を中心に講員たちが声たからかにお唱えしていた。

ところが、とてもテンポ(拍速)が遅い。たしか三宝御和讃だったと思うが、間のびしてなんともおかしい。修行僧たちは「やはりあの先生の教え方だ。のんびりした性格からして、ああなるだろうな」と陰口をきいて笑っていたものである。

今のように、メトロノームを使って、正確な拍速を計るようなことをしない、おおらかな時代ではあった。私もその時すでに梅花をやっていたので、テンポが遅いと、曲の感じがずいぶん変わるし、教える人の性格によって音調が異なるものよ、と法友と話しあったことを思い出す。

奉詠大会などでも、よく見聞きすること

だが、教典の指定の拍速からしてずいぶん遅いと思うことがある。卒直にいうと、秋田県の講員さんたちは、総じて遅めになりがちではないだろうか。初めは良くてもだんだん遅くなる。やはり地域性かもしれない。これは私の推測だが、恵まれた自然環境なるが故にのんびりしすぎてそうなるのではなからうか。

それはさておき、このどつしり構えた私どもの脈はくも、検定の時になるとたんに早く、強く打ちはじめる。心臓が破裂しないかと心配するほどになる。つま

りアガッテしまうのだ。ところで、そのアガラナイためにはどうしたら良いだろうか。私もアガルほうなので大きなことはいえないが、いつも次の三つのことを、自分に云いさせるようにしている。

一つめは、このドッキンドッキンは、自分の心臓さんが新しい血を、身体や頭のすみずみまでゆきわたらせるため、いっしょうけんめい頑張っているんだと思うこと。

二つめは、大きく深呼吸して、腹の中心配ごとを、全部吐き出してしまおうようにいわば腹式呼吸をすること。

三つめは、つねひびごろ信仰している佛様私の場合「南無観世音菩薩」をひたすら念ずること。こうすると、鼓動が自然に落ちつくようになる。ひとつお試しになつては



いか。要するに、からだの拍速を整えることの大切さである。これはいろんな生き方にも、そのまま通じよう。

長生きする為に大事なものは規則正しい生活であるといわれる。常に悲しみや喜びにふりまわされたい、つまり同じテンポで淡々と生活することだ。

うちの檀家で、百三歳まで長生きしたお婆さんがいた。その方は起居全般、実に規則正しく、リズムカルであった。たとえば食べ物など、けっして《おしぐい》しない。

何でも食べたが、食事時間と分量はしっかりと守った。そして食事ごとにかならずコップで一杯、水を飲む。

また、その時の年令にふさわしい自分の仕事を毎日欠かさなかった。

これなどはよく、心と体の調子を天地自然のリズムにうまく乗せたために、天寿を全うしえた良い例でなからうか。

いくなれば、人それぞれに本来そなわっている「こころの撞木」で、上手に「からだの鉦」を調子よく打つ。しかも同行同修の皆と一緒に長く続けて精進する。それが老化防止や長寿にどれほど有効であるのかを考えたい。

最後に、私たちが手にする撞木の動きには、佛菩薩の眼に見えない大きなお力添えのあることを、忘れてはならないだろう。

合川町 太平寺住職 亀谷健樹

第15回 講員一泊研修会

11月17日～18日
会場 合川町 太平寺



朝 課 諷 經

講 習 風 景



編集後記



☆原稿を寄せていただいた方、読者の講員の皆様、お待たせしました。お盆の頃には講員さんの手元にとお思っておりましたが、私の怠慢によりまして「同行」第八号、大変遅くなりました。深く深くお詫びを申し上げます。

☆創刊以来、編集責任者として當誌を育ててまいりました、秋田市東泉寺住職柴田弘一師は、副会長職に専念することとなりました。御苦労さまでした。

☆県内各地での研修会や、梅花の行事等も次号からは記録として載せたいと思います。皆様の御協力をお願いします。

迎 禅センターの 梅花講習会

○毎月第一土曜日 十時半～三時まで
○参加自由（どなたでも結構です）
○会費 無料
○講師 管内師範 その他
○昼食持参

場所 秋田市泉三嶽根一五一一八
（平和公園入口 左側）

電話 ○一八八一六八一六八七一番

師範会役員名簿

平成5年3月4日改選

	氏名	寺院名	教区	住所	担当
会 長	亀谷 健樹	太平寺住	10	合川町上杉	
副 会 長	佐藤 仁鳳	全応寺住	18	比内町中野	
〃	柴田 弘一	東泉寺住	2	秋田市金足	
顧 問	加藤 信三	宗福寺東	18	大館市豊町	
〃	丹生 純雄	相川寺住	12	雄和町相川	
監 事	佐藤 道機	泉流寺東	3	本荘市日役町	
〃	荒川 高明	龍江寺住	9	琴丘町鹿渡	
幹 事	岩祖 粗芳	恩徳寺住	11	鹿角市花輪	検定研修部
〃	佐藤 舜英	温泉寺住	18	大館市二井田	
〃	佐藤 広俊	本宮寺住	〃	大館市本宮	講員一泊研修部
〃	佐々木禅孝	徳昌寺副	9	能代市向能代	宗侶寺族研修部
〃	柳川 浩二	玉鳳院副	〃	能代市常盤	講員一泊研修部
〃	鈴木 道雄	自性院住	13	天王町天王	講員一泊研修部
〃	須藤 知俊	円通寺住	12	秋田市四ツ小屋	検定研修部
〃	近藤 俊貞	円通寺住	3	西目町沼田	宗侶寺族研修部
〃	本間 俊英	恵林寺住	4	本荘市内黒瀬	
〃	伊藤 道嗣	竜巖寺住	8	角館町雲然	宗侶寺族研修部
〃	山中 律雄	禅林寺副	14	仁賀保町院内	宗侶寺族研修部
〃	柿崎 隆穩	東山寺副	5	湯沢市柳町	講員一泊研修部
〃	矢萩 綾	慶祥寺族	3	由利町前郷	宗侶寺族研修部
〃	茂林 愛子	鳳来院族	9	八竜町鶴川	宗侶寺族研修部
	三浦 昌彦	鱗勝院副	1	秋田市旭北栄町	(中央地区研修)
	武田 俊英	松源院副	9	八森町八森	(9教区研修)
	佐々木賢龍	耕田寺住	10	阿仁町比立内	(10教区研修)
	金沢 一弘	吉祥院副	11	鹿角市八幡平	(11教区研修)
	佐藤 俊晃	龍泉寺住	18	鷹巣町七日市	(18教区研修)
会 計	保坂 春聴	新田寺住	10	合川町新田目	広報部(同行編集)
事務局長	奥山 芳寿	浄福寺住	10	森吉町本城	